

東青地区統合校開設準備委員会（第3回）概要

日時：令和7年10月10日（金）

13:00～14:50

場所：県立浪岡高等学校 会議室

<出席者>

○委員

前田 済 委員長、岡 一仁 副委員長、岩井 友之 副委員長、
竹内 芳 委員、倉内 由理子 委員、八木橋 敏晃 委員、高田 万里子 委員、
對馬 牧子 委員、山内 栄隆 委員、常田 清彦 委員、加藤 文子 委員、
今別 幸司 委員、白鳥 里恵 委員

○オブザーバー

県立青森西高等学校

山内 拓雄 教頭、山崎 宏美 事務長、千葉 哲也 教務主任

県立浪岡高等学校

野呂 和也 教頭、成田 美幸 事務長、高橋 朋己 教務主任

1 開会

2 事務局説明

第2回東青地区統合校開設準備委員会における主な意見

■ 事務局が資料1により、第2回委員会における主な意見について説明した。

3 意見交換

（1）校名案候補への意見募集及び絞り込み方法について

① 校名案候補への意見募集について

■ 事務局が資料2により、校名案候補及び提案理由を確認し、意見募集の方針や論点等について説明した。

■ 委員長が各委員に対して、校名案候補及び提案理由に関する補足や質問があるか確認したところ、岩井副委員長から提案理由の修正があったほか、委員から次のような意見があった。

○ 提案いただいた3名の委員に、校名案候補の傾向など、感じたことがあれば伺いたい。

→（岡 一仁 副委員長）

生徒や同窓会にアンケートを実施した結果、9割以上が「青森西高校」とい

う内容だった。青森市の西地区に教育活動の場を拡大して教育活動を行っていくことが学校の魅力を発信することにつながるのではないかという意見が多かった。

(岩井 友之 副委員長)

浪岡地区の方の意見として、浪岡高校がなくなるというイメージにならないよう、できれば新しい学校名にしたいという意見が多かった。位置や地名にちなんだ学校名にするか、全く新しい学校名にするか悩み、多めに提案した。

(今別 幸司 委員)

東青地区の全ての中学校に依頼し、1, 424人の中学生(全6, 367人の約22%)から回答があった。1番多かったのは「青森西」であり、ほかには「西」「浪」「岡」を用いたものが様々あった。「青森桐和」は、西や浪岡の文字をあえて使わず、浪岡高校の校章にある「桐」と青森西高校の校訓の「和」を合わせ、両校の精神を表現した校名として考えた。

■ 委員長が各委員に対して意見を募集する校名案候補について確認したところ、今別委員から「青森西浪(にしなみ)」と漢字表記が同一の「青森西浪(せいろう)」を取り下げる提案があり、他の委員の了解を得て、「青森西浪(せいろう)」を除いた12案について意見を募集することとした。

■ 委員長が各委員に対して意見募集の対象を限定するかどうかについて確認し、限定しないということで委員から了解された。なお、委員から次のような意見があった。

○ 意見募集はどのように広報するのか。校名案候補の提案に協力してもらった統合対象校や中学校の生徒に、意見募集について周知できれば良い。

→(事務局)報道機関に広報用チラシを送付し、報道を依頼するほか、各委員にも同チラシを送付するので、校名案候補を提案いただいた3名の委員から生徒に周知いただいたり、他の委員におかれても必要に応じて周知いただきたい。

○ 意見を提出した方々が、提出した意見の取扱いや、校名決定までのプロセスについて理解できるように配慮し、意見募集を実施してもらいたい。

② 校名案の絞り込み方法について

■ 事務局が資料3により、校名案の絞り込み方法に係る論点等について説明した。

■ 委員長が各委員に対して、事務局が提示した原案を踏まえて校名案の絞り込み方法について意見を求めたところ、次のような意見があった。

○ 各委員が3案推薦して協議により絞り込む方法が良い。

- 各委員の思いはそれぞれ異なり、なかなかまとまりにくいと思われるため、投票により絞り込む方法が良い。
- 事前に意見募集の結果を確認できるのであれば、第4回委員会までに、各委員が提出された意見を踏まえてどの校名案が良いかを考えることができると思うので、投票が良い。
- 意見の多寡により決めるものではないとはいえ、意見募集の結果を確認すれば意見が少数であるかどうかもあり、選びやすくなるため、投票すれば決まるのではないかと。なお、投票については、例えば委員が持ち点10点を3つの候補に自由に振り分けるという方法もある。
- 各委員の投票の結果、5案に絞り込むのが難しい場合、6案になっても良いのか。
- （事務局）協議の結果、6案となるのであれば、それを妨げるものは無い。
- 委員長が、これまでの協議を踏まえ、意見募集の結果を参考に各委員が3案を選び、合計投票数をもって校名案を絞り込む方法とすることを確認し、委員から了解された。

（2）校訓・校章・校歌の方向性について

- 事務局が資料4により、校訓・校章・校歌の方向性に係る論点等について説明した。
- 委員長が各委員に対して意見を求めたところ、次のような意見があった。
- 本委員会で校訓や校章の方向性を出す必要は無い。校名も決定しておらず、統合校のビジョンがなければこれらの検討は難しい。
- どの学校においても、「こういう人財を育てていこう」という思いがあって校訓等がある。両校の校訓は同じことを表しているので、変えずにそのまま引き継ぐのが良い。
- 学校を管理する立場からすれば、生徒には育むべき資質・能力を、教員には教育活動を実践する方向性を示すことにつながるため、校訓や教育目標は必要である。令和8年度の6、7月頃には求める生徒像を各中学校に示す必要があり、しかるべきタイミングで校訓等を作っていくべきである。
- 校訓はあるべきだが、実際に生徒を育てる立場の先生方の意見が大事であるため、本委員会において議論するのではなく、先生方にまとめてもらえば良い。両校の校訓を引き継ぐと決めることもできない。

- 校名が「青森西高校」になるのであれば、校歌は現在の青森西高校のものを引き継いでも良いかもしれない。ただし、校名が分からないので、現時点でどうするかという議論はできない。校名が変わり、新たに制作するのであれば、大変素晴らしいと評価されている現在の青森西高校の校歌に匹敵するかそれ以上の校歌を制作してもらいたい。
- 校名が決まれば、その校名をイメージできるような校章の考え方も出てくると思うが、現時点で協議する話ではない。
- 校名が決まった段階で、開設準備室において、新しいものを制定するのか、統合対象校のものを引き継ぐのか、という方向性も決めてもらうのが良い。現段階の本委員会では方向性を示すこともできない。
- 校名が決まらない限り検討できないとすれば、開設準備室における業務が厳しくなると思われ、ある程度の方向性は示しながら開設準備室に引き継ぐ方が良いと思うが、スケジュール的にはどのような見込みか。
→（事務局）令和8年6月の県議会において統合校の設置について上程する予定であり、校名はそのタイミングで決まることを想定している。
- 求める生徒像の作成依頼が県教育委員会から学校に来るのが毎年4月頃だが、校名が決まってから検討するのであれば間に合わないのではないか。
→（事務局）開設準備室は4月に設置予定であり、校名が決まらなければ開始できない業務もあると思うが、求める生徒像の検討は間に合うように進めていただくことになる。委員の協議の結果、必要があれば、現在設置している教育課程検討のための作業部会において検討することも考えられる。
- 両校の先生方の負担が増えるため、現時点で作業部会において検討するよう決定するのではなく、県教育委員会と両校の校長とで相談しながら、必要があれば作業部会における検討を考えるという形で良い。
- 校名が決まらなければ校訓等の方向性が決められず、それらの検討は開設準備室が設置される令和8年度からとなる。現段階では、今後このようなものを決めなければならないという状況を共有するのみで良い。今、無責任に決定するのも不安であり、来年度以降の校長先生や学校に携わる人たちがどのような思いで担っていくのかということを、教職員も一体となって考えていかなければならない。
- 委員長が、これまでの協議を踏まえ、校名が決定していない現段階では校訓等の方向性について協議することはできず、今後、校訓等を検討する必要があるということを共有するに留めることを確認し、委員から了解された。

(3) 部活動の方向性について

■ 委員長が各委員に対して、資料5を踏まえ、統合校に引き継ぎたい部活動等について意見を求めたところ、次のような意見があった。

○ 現在、浪岡高校に設置されている部活動のうち、青森西高校に設置されていない部活動が家庭科部であるが、家庭科の教員に確認したところ、現在は委員会活動として行っているものの、部活動となった場合でも対応可能であるとのことであった。また、青森西高校で行っているおもてなし隊については、現在でも浪岡高校の生徒会役員を中心に一緒に活動しているため、統合校においても活動できるものと考えている。

■ 委員長が、委員からの意見を踏まえ、現在両校に設置されている部活動を、統合校においても引き継ぐ方向性とすることを確認し、委員から了解された。

(4) 統合対象校間の連携の方向性について

■ 委員長が各委員に対して、資料6を踏まえ、統合対象校間の連携の方向性について意見を求めたところ、次のような意見があった。

○ 統合後も含めて青森市市民協働推進課と情報交換するなど、地域との連携について確認してはどうか。

○ 両校は離れて立地しているため、生徒の移動に係る課題を解消しなければ連携が難しい。令和8年度生が最後の入学生で、年々生徒が減っていくことになるため、両校や統合校の連携は年々大事になる。生徒が活動しやすいように、学校や県教育委員会において、移動に係る経費補助の予算化などを検討してもらいたい。

○ 青森西高校や統合校にとって、浪岡地区で行われる北畠まつりなどのイベントに生徒が参加したり、浪岡の小・中学校と連携したりするなど、活動を拡大させていくことが存在価値を示していくことにつながるため、生徒が参加できるイベントなどの情報があれば学校に紹介してもらいたい。

■ 委員長が、これまでの協議を踏まえ、統合対象校間の連携について情報交換しながら、両校で連携を深めてもらう方向性とすることを確認し、委員から了解された。

(5) 記念物品の展示の方向性について

■ 委員長が、統合校は青森西高校の校舎を利用することから、青森西高校の校長である岡副委員長に対して、展示の方向性について意見を求めた。

○（岡 一仁 副委員長）

資料7の裏面にあるような、両校の歴史などが見て取れる形にできれば思っている。また、統合後に限らず、文化祭等で両校の思い出などを紹介していくことも大切であると考えている。

■ 引き続き、委員から次のような意見があった。

○ 本委員会において、以前、浪岡地区に統合校のサテライト機能を設けることについての意見が上がったが、今後、そのような施設ができるようであれば、その施設にも記念物品を展示するということも考えられる。

○ 浪岡高校が閉校した後の校舎はどうなるのか伺いたい。

→（事務局）県有施設の活用の方針に沿って、県、市町村、民間と段階を踏んで活用について検討していくことになる。

■ 委員長が、これまでの協議を踏まえ、両校が閉校した後の記念物品の展示について、開設準備室等において検討を進めてもらう方向性とすることを確認し、委員から了解された。

（6）事務の引継ぎの方向性について

■ 事務局が資料8により、事務の引継ぎの方向性について説明し、委員長が各委員に対して質問等を求めたところ、特に意見は無かった。

4 その他

制服検討WG及び教育課程検討WGの進捗報告

■ 委員長が岡副委員長に対してWGによる制服検討及び教育課程検討の進捗について報告を求めたところ、岡副委員長から詳細をWGの構成員である本委員会オブザーバーの山内青森西高校教頭及び野呂浪岡高校教頭から報告してもらおうとし、両教頭から以下の報告がなされた。

○ 制服検討WG

参加の意向があった全ての業者から9月5日までに制服企画提案書及び体育着のサンプルが提出された。その後、9月12日に、両校の教頭、生徒指導部主任、家庭科教員、生徒指導部の女性教員により、採点による事前審査を開始し、9月17日に青森西高校で採点の集計を行った。また、同日、両校の体育科教員7名により、青森西高校において体操着の審査を行った。

9月18日、第2回WGを青森西高校で開催した。両校の校長、教頭、生徒指導部主任、生徒指導部女子担当教員の計8名により、新制服及び新体操着の業者について検討し、いずれも菅公学生服に決定し、翌19日に、各業者に選定結果を通知した。

今後は、11月に第3回WGを開催し、新制服決定までのスケジュール等を審議する予定である。

○ 教育課程検討WG

9月25日に青森西高校で第1回WGを開催し、両校の教育課程について確認した。また、今後の検討の流れについて話し合い、まだ決まっていないことが多い中で教育課程を検討することの難しさはあるが、現在の青森西高校の教育課程を基本として、両校のこれまでの取組や統合校の方向性などを踏まえて検討していくことを確認した。

11月に第2回WGを開催する予定である。

■ 引き続き、委員から次のような意見があった。

- 制服の検討について、これまでの協議でも意見が上がっていたように、可能であればいずれかの段階で両校の生徒の意見を聞き取るような取組を検討してもらいたい。

その他

- 委員長が各委員に対して、全体を通して意見等がないか確認したところ、岡副委員長から次のような意見があった。

- 先日、青森西高校の関係4団体（父母と教師の会、同窓会、奨学会、PTA同窓会）の交流会があった際、各団体の方々から、新しくなる学校を今後も支援していきたいという強い要望が出された。特に、卒業生の保護者で構成しているPTA同窓会は、他校にはない団体で、現在も年に数回来校し、校内外の花壇の整備や文化祭でのボランティアでの販売などを行って、その売上げを学校に寄付してもらったりしている。

そのような関係団体の方々から、今後もそのような活動に参加していきたいという話が出ており、開設準備室が設置されたときにはそのような点にも話題が及ぶのではないかと考えている。

特に回答を求めるものではないが、そういう強い要望があり、統合校はどのような支援も受けながら学校を作っていくことができれば良いと考えている。

5 閉会